

神宮寺長沢の石幢へ小窓の中の六地蔵上へ

いりりり 諏訪地方へ 番古へ

(2)



沢の石幢。諏訪大社本宮の東参道の一角に建つ長

で叩くと乾いた快音を発する特徴があります。番がおって石は柘太夫、東半分は権矢島宮非石は、石質が柔らかく、細工がじわじわ、へ、風化、腐食してしまった「神宮寺石」を使っています。神色の石は、この地域で産出した水の露が凝縮してしまったのです。神交文化財に指定されています。番古の石幢です。諏訪市有形文化財に指定されています。

（8月吉日）と刻まれておる竿の部分に「慶安元年（1641）年に石に彫られた六地蔵が安置され、その姿を見ることができます。竿が、六角の各面に小窓があり、中で人生が変わった時に、長沢の石幢を廻ります。個人が良き世界に生ぜられ変わる輪廻転生を願って建てられてました。一緒に六道輪廻の言臼であります。石幢は、耳慣れない石塔です。や康申供養塔などの石造物。そのまつた一角に諏訪本十人筆の念仏碑がある六地蔵

れました。それを持つため、多くへの石造物が造ら

今回の筆者



すわ大音報セノタ（諏訪市広）
書店「言事堂」（諏訪市）
れすじら謹題鑑定屋（諏訪市）
（諏訪市）
・諏訪市觀光案内所
23・2014()
諏訪郵便局（電話020-008
群山場所のみの間で今は会
= 隨時撮載

氏所地の境界線を示す「矢」と埋め込まれています。



立川流建築影刻研究者でス

涌井みち子さん

して活動しています

ボーグライスラッターヒ

木の石幢。諏訪大社本宮の東参道の一角に建つ長